

2月21日(木)~3月29日(金) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : ピーター・バラカン

音楽との出会いは様々な形をとります。ぼくは長年にわたってラジオで音楽を紹介していますが、2012年に Beauty Apothecary という、当時のぼくにとって新たな媒体で好きな音楽をアルバム単位で聞いていただく機会に恵まれました。最初は自分で選曲し、途中から信頼の置ける仲間にも参加してもらって、毎月満月の日にプログラムを更新する形で多様な音楽を提供できたかと思います。今回で最後となりましたが、またぜひ番組やDJイベントなどでお会いできたら嬉しいです。ありがとうございました。

ピーター・バラカン

今回のセレクトCD

1.



Chris Thile / Thanks For Listening (Nonesuch / 564711-2)

パンチ・ブラザーズの中心人物でもある天才マンドリン奏者、クリス・シーリの最新ソロ・アルバムです。「聞いてくれてありがとう」というタイトルは、彼がホスト役を引き受けたアメリカの老舗ラジオ番組のために書き下ろした楽曲を特集していることを示唆するものです。一般のポップ・ソングとは一線を画した、やや意外なメロディとコード進行にもかかわらず、ソフトで聞きやすく、耳に心地の良い音楽です。

2.



I'm With Her / See You Around (Rounder / 1166100317)

セーラ・ワッキンズ、セーラ・ジャローズ、イーファ・オードノヴァンという3人の女性シンガー・ソングライターは、それぞれフィドル、バンジョー&マンドリン、ギターで伴奏しながら、聞く人が思わず手を止めて向き直ってしまうほど心に刺さる素晴らしいハーモニーで歌います。クリス・シーリとの仕事を通じて一段と注目度が上がってきた彼女たちの活動は、今後ますます脚光を浴びるに違いありません。

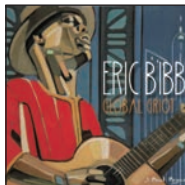
3.



Inara George / Dearest Everybody (Ça Va? / HYCA3078)

イナラ・ジョージは渋めのロック・バンド、リトル・フィートのロウエル・ジョージの娘ですが、彼女が5歳の時に亡くなった父とは異なったスタイルのシンガー・ソングライターです。ジャズにもクラシックにも興味がありそうな、洗練された感覚の曲を落ち着いた大人の味で聞かせます。30代で亡くなった父の年齢を超えた今、彼や母のことにも触れる曲で自分の感情を淡々と表現します。

4.



Eric Bibb / Global Griot (DixieFrog / DFGCD8810)

ニューヨークの音楽一家で育ち、今はスウェーデンを拠点とするエリック・ビブはフォーク感覚で古いブルーズを歌ったり、アフリカのミュージシャンと共演したりするアフリカン・アメリカンのシンガー・ソングライター。今の社会で起きる不条理について誠実に、時にアイロニも込めて、決して攻撃的にならずに平和主義的な世界観を伝えます。アコースティックなサウンドがとても美しいです。

5.



Bassekou Kouyate & Ngoni Ba / Miri (Out Here / OH 032 CD)

西アフリカのマリ出身のバセク・クヤーテが演奏するンゴニは素朴な弦楽器ですが、そのウクレレほどの大きさから想像しがたい表現力とエネルギー溢れる演奏をします。彼の親戚からなるグループ、ンゴニ・バーは様々なサイズのンゴニを奏で、リード・ヴォーカルは奥さんのアミ・サコ。友情、嫉妬など、人間関係についてまじめに取り組んだ歌が多いですが、歌と演奏の素晴らしさだけでうっとりする音楽です。